

交換留学帰国報告書

記入月日: 平成31年2月5日

氏名: 金子 のの子

留学時所属&学年: 国際地域学部3年

留学先大学	ヴィータウタス・マグヌス大学
留学先国	リトアニア
留学期間	1年間
留学開始-終了日	2018年1月21日 - 2019年1月15日

報告書上での氏名公開について（どちらかに○をつけてください。）

帰国報告書：公開を 希望します ・ 希望しません

月例報告書：公開を 希望します ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

留学することが中学生の頃からのひとつの夢だったこと、グローバルアプローチ選択で留学が卒業条件として必須だったため。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

本格的に始めたのは2年生からです。TOEFL550以上取るための勉強は1年生から取り組み、留学セミナーを通して精神的な部分・心の準備が前もってできました。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

留学先を決めるにあたってヨーロッパの国に行きたいというのがまずありました。ヨーロッパにいれば陸続きで移動がしやすく、留学先だけではない国を旅することができます。リトアニアに決めたのは、自分の中でまったく想像できない国だったからです。アメリカやイギリスなど留学で主流とされる国は頭の中でどういう国かだいたい想像できます。リトアニアは、どういう歴史・文化をもち、どのような人々が住んでいるのか、わからないからこそ、その国へ行って知りたいと私は思いました。また、大学生活を送りながら杉原千畝記念館でインターンシップできることも魅力的でした。

福井大学から派遣される学生第1号だったので、情報はほとんどなく、大学のホームページなどをチェックしたくらいです。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL 対策は文法を中心に問題を繰り返し解いていました。いろんな対策本に手を出すのではなく、1・2冊に絞って集中的に取り組むことで解くコツを掴んでいきました。学部全体で受験する TOEFL ITP を毎回受け、5回ほど受験しました。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

福井大学初めての派遣先だったため、大学の情報、とくに生活面の情報がほとんど得られず少し不安でした。でも逆に何もわからない状況がイタリアへ行くワクワク感を増してくれた気がします。国際課の方々のサポートが手厚いので、書類などの準備は安心してできました。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

Google で「VDU course」と検索すると、セメスターごとの授業一覧が出てきます。そのリストを見ながら興味のある授業や取りたい授業を抜き出して、福井大学のシラバスとにらめっこしてください。授業内容がだいたい被っているもの、認定されるかどうかわからないものでも、とりあえず申請していいと思います。また、現地で履修する時に授業の曜日や内容が変更されていることは珍しくないことなので、柔軟に対応していきましょう。

VDU は、英語で開講されている授業が多く、自分の学びたいことに繋がる授業を見つけることはできます。しかし、それが福井大学の単位として交換できるかといえば厳しいです。授業内容から福井大学の教員がどう判断するかがすべてなので、どうしようもないところがあります。ただ、日本や福井大学には学べないことを学ぶことが留学だとするならば、単位認定ができなくても自分の取りたいと思った授業は取るべきです。

【留学中: 大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

ヨーロッパからの留学生だけでなく、ウクライナやトルコ、インドなどからの留学生も多いです。学部の所属関わらず、どの学部の授業も自由に取りることが可能なので、とてもオープンな大学だと感じます。言語や社会、政治系の授業は、寮から歩いて行ける範囲にキャンパスがありますが、音楽や美術系のキャンパスは遠いためバスを利用する必要があります。

日本と違い、授業への出席が成績に反映されることがほとんどなく(言語のクラスは教授によって出席をとり、成績に影響する)、テストだけ受けに来る学生が多いので、テストの日に本当の

履修人数がわかります(笑)

授業中に PC やスマホで Facebook やチャットをチェックしてスマホをいじる学生がいるのは日本と変わらない風景ですが、寝ている学生はいません。ただ留学生のテストのカニングに対する罪意識が低すぎるのには驚きました。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

大学のキャンパス内で使える wifi は、不自由なく利用できます(ごくたまにつなかりが悪い時もある)。講義室は基本的に閉まっているため、静かな環境で勉強したいときに空いている教室を使うことができません。図書館は新しくシンプルな内装なので集中しやすい環境ですが、夜遅くまでの利用ができないためカフェに移動するか、寮に戻って部屋で勉強する必要があります。学習をサポートする部署はないので、授業でわからない点がある場合は教授に授業終わりやオフィスをたずねて直接聞きに行くか、メールでの対応になります。

大学のジムは寮から遠く、バスを利用しなければならないのでおすすめはできません。スポーツジムに行きたい場合は、寮近くにある安いが設備は充実していないジム、バスターミナル近くの少し高いけど器具やマシンが充実しているジム、丘の上であり遠いけどサウナ・シャワー付きでヨガや筋トレなどのクラスに参加できるジム、この3つがおすすめです。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

・日本文化サークル-橋-

・Language exchange-Let's Talk Kaunas-

10月の月例報告書で詳しくお伝えしているので、そちらをご覧ください。



B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<p>●科目名(担当教員名): Lithuanian Language for Foreigners A1 (T. Ringailiene)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週2回(6ECT/4単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 20 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): リトアニア語の初級クラスです。挨拶や自己紹介からはじまり、伝えたいことによって語尾が細かく変化する文法のしくみを理解し、食べ物や施設など日常で使われる単語を覚えていきます。教員が当てて、それに答えたり、ゲーム形式で楽しみながらリトアニア語を学んでいく授業です。</p> <p>課題: 家族や場所について10個ほどの短いセンテンスを書く</p>
2	<p>●科目名(担当教員名): Media Studies (J. Greenspon)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 40 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 主にメディアにかかわる用語や問題を解説します。この教授は Moodle(VDU の学習ページ)を使わず独自のホームページを持っているため、そこから教科書をダウンロードしたり、授業の資料や課題のお知らせを見ることができます。</p> <p>課題: エッセイ3つ</p> <ul style="list-style-type: none">・広告におけるステレオタイプ・オンラインショッピングと比較してお店で直接購入する良い点と悪い点・タバコに関する問題を描いた映画「Thank you for smoking」について
3	<p>●科目名(担当教員名): European Identities (A. Svarplys)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 20 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): Identity の定義から始まり、時代によってその捉え方が変わってきたこと、イギリス、フランス、ドイツなどヨーロッパ諸国の“ヨーロッパ人”としての意識は、“イギリス人”“フランス人”“ドイツ人”という national identity とどう関わってくるのかなど、ヨーロッパの Identity を歴史的出来事や知識人たちの考えと共にみていくというものです。教授が身近な例を取り上げながら、ユーモアを交えてわかりやすく解説してくれるので、1時間半があつという間に感じる程、この授業は面白いです。</p> <p>課題: 特定の国のアイデンティティについて分析したペーパー</p>
4	<p>●科目名(担当教員名): Development Politics and Strategies of International</p>

	<p>Organization (L. Didvalis)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位) ●クラスの学生数: 約 40名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): <p>SDGs(持続可能な開発目標)をひとつずつみていき、先進国と発展途上国の取り組み方や課題を学んでいきます。</p> <p>課題:ペーパー2つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Reading のリフレクションペーパー ・水不足問題と SDGs
5	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Global Politics 2 (G. Žukaite) ●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位) ●クラスの学生数: 約 40名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): <p>Global Politics という授業では、世界中で活動している NGO の役割やテロリズムについて、メディアと戦争の関わりなど、世界で起きた、また起きている出来事と関連させながら学ぶことができます。授業が始まると、まず先生が学生に、この 1 週間で起きた世界の出来事を聞きます。そして、学生は自分が気になったニュースを発表し、それに対して先生がコメントをしていく対話型の授業です。</p> <p>課題:2017年に起きた出来事の中から、自分が重要だと考えるものをひとつ選び、その背景や影響などを踏まえて、自分の考えをまとめたペーパー。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): German Language A1 (G. Malinauskienė,) ●時間数/週(単位数): 45分/週4回(6ECT/4単位) ●クラスの学生数: 約 15名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): <p>リトアニア人とドイツ人の先生 2 人体制。初級レベルとなっていますが、実際の授業は、もともとドイツ語を習っていた人向けのレベルとなっています。文法は完了形までの範囲で、授業でとにかく話させる、使わせながら覚えていく形式です。15人ほどの少人数クラスなので、みんなで和気あいあいの雰囲気の中でドイツ語を学ぶことができます。</p> <p>課題:あるトピック・状況に沿った会話をペアワークでつくる</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Media and Popular Culture (J. Greenspon) ●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位) ●クラスの学生数: 約 40名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): <p>コミック DC やマーベルなどのアメリカンコミックから社会問題や宗教、ジェンダーなどを取り上げていきます。ただ読むのを楽しむだけでなく、コミックの背景にあるもの、ど</p>

	<p>のように社会を反映しているかを知ることができ、アニメやコミックに対する捉え方が変わるような面白い授業です。アメリカ人教授の喋りが止まず、少しエネルギーを吸い取られる90分となっています。</p> <p>課題:コミックのリフレクションペーパー5つ</p>
8	<p>●科目名(担当教員名): Sociology and Anthropology (J. Bučaitė-Vilkė, J. Kuznecovienė)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 40名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等):</p> <p>社会学と人類学。文化的・社会的な面から結婚や家族のあり方、宗教、政治、経済など幅広い分野のトピックを扱っていきます。授業の中で、教授が生徒にあなたの国ではどうなの?と質問するので、それぞれの国で違いや状況をその国の留学生から知ることができます。</p> <p>課題:Reading</p>
9	<p>●科目名(担当教員名): Geopolitics (M. Norkevičius)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 30名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等):</p> <p>地政学。地理的な条件が国家に与える政治的、経済的、軍事的影響をふまえて、各国の国家戦略をみていく授業です。主に、アメリカやロシア、ヨーロッパの関係を中心として第二次世界大戦や戦後、冷戦などから地政学を理解していきます。</p> <p>課題:ある国を地政学的視点から分析したリサーチペーパー</p>
10	<p>●科目名(担当教員名): International Cooperation in the Black Sea Region (S. Rakutienė)</p> <p>●時間数/週(単位数): 90分/週1回(4ECT/2単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約 15名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等):</p> <p>黒海において周辺国の政策や国同士の関係を分析していきます。地政学とも近い部分があり、地域を限定してその政治的、経済的つながりをみていくのが面白いと感じる内容です。ロシアを中心として紛争や地域問題、国の力関係をディスカッションしながら理解を深めていきます。</p> <p>課題:・黒海周辺国、ある国の外交政策についてのグループプレゼン(どの国をやるかは教授が決める)</p> <p>・黒海周辺で協力する体制や抱える紛争問題の中からひとつ選んでリサーチペーパーを書く</p>
12	<p>科目名(担当教員名): Religion and Politics</p>

	<p>(M. Ališauskienė)</p> <p>●時間数／週(単位数)： 90 分/週1回(4ECT/2 単位)</p> <p>●クラスの学生数： 約 15 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： 宗教と政治。宗教に対する知識がないと理解するのが難しい内容もありますが、いま世界で起きている事、例えば人工妊娠中絶に対する法案などから宗教や政治との関係を見ていくのはとても重要なことだと感じます。宗教と政治においての問題を歴史的、現代的な視点からみていく授業です。 課題：・原理主義の宗教団体に関するドキュメンタリーのリフレクションペーパー</p>
11	<p>●科目名(担当教員名)： Studies of Colonialism and Post-Colonialism (R. Balockaite)</p> <p>●時間数／週(単位数)： 180 分/週1回(6ECT/4 単位)</p> <p>●クラスの学生数： 約 10 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等)： ヨーロッパがいかにして植民地を増やしていったか、政策やセオリーを通して学んでいきます。主に西欧諸国についてフォーカスしていますが、日本の植民地政策はどうだったのか照らし合わせて考えるきっかけになる授業です。 課題：・授業であつかったトピックに関連したテーマでペーパーを書く ・自分のペーパーをまとめた内容をプレゼン</p>

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

全て聞こうとするのではなく、重要だと思うことを毎回の授業で1つは必ず見つけておさえておくこと。メモは英語で取り、その内容に補足するときは日本語で書いておくと、見返したときに授業内容が理解しやすかったです。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

Reading が Moodle 上にあつて PC で読むスタイルとなっているので、毎回 PC で読むのは目が疲れました。紙で読みたい場合は印刷屋さん(Copy1)に行つてコピーしなければなりません。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

教授がひたすら説明する講義スタイル、学生の間で議論するディスカッションスタイル、学生と教授で意見を交わす対話スタイルがあります。クラスの人数や授業のテーマ、担当する教員によって形式は異なります。セミナーがある授業やマスターの授業は少人数規模なので、よりじっくり学べる環境だと思います。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

- ・Lithuanian Language for Foreigners A1 (T. Ringailiene)
- ・European Identities (A. Svarplys)
- ・Global Politics 2 (G. Žukaite)
- ・Media and Popular Culture (J. Greenspon)
- ・Studies of Colonialism and Post-Colonialism (R. Balockaite)

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	・春学期 2人部屋 ・秋学期 3人部屋
寮・アパート名	Baltija(バルティヤ)
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 寮の wifi は弱いため、wifi ルーターを使用
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器(暖房のみ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (冷蔵庫)
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) 大・小キッチンと電子レンジ(各階) 学習ルーム(7階) 洗濯機・乾燥機(0階)



2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。
(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

寮から歩いて10分ほどのところに「Akropolis」というショッピングモールがあります。ここは Maxima スーパーや薬局、銀行、服屋、映画館などが入っているので、だいたいものは手に入ります。日本食レストランは寮から15分、Laisves 通りに「Kamakura」というお店があります (オーナーは日本人のマットさん)。

三大スーパー: Maxima、Iki、Rimi

ATM: Akropolis の中や Laisves 通り。

郵便局: バスターミナルの前か、Laisves 通り。



3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

私はクレジットカードではなく VISA のプリペイドカードを利用し、基本的に ATM からある程度引き出しておいて、日常生活では現金を使い、旅行のフライトチケットやバス、宿代はそのカードで支払っていました。また、スケジュール帳に支出を記入し、月ごとに計算して自分がどれくらいお金を使っているのか把握するようにしました。

Master Card と VISA の2種類もっておくと安心だと思います。

寮費は、Student Center でカード支払い(手数料3€)となっています。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通し、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

【持ってこればよかったと思うもの】

・カレーのルー

- ・お好み焼きの粉とソース
 - ・たらこスパゲッティの素
 - ・日本の調味料系(だし、めんつゆ、ポン酢、ごま油)
- ※リトアニアでは手に入らないが、ロンドンやワルシャワなど大きな都市にあるアジアンショップではゲットできる。
- ・カルピスの原液(プレゼント用)
 - ・電子レンジで使えるパスタ用の容器
 - ・服の消臭剤
 - ・Kindle(本が読みたくなる)
- 【持ってきてよかったもの】
- ・日本のお菓子とお土産
 - ・愛用の歯ブラシ12本と歯磨き粉
 - ・友達がくれたアルバム
 - ・ユニクロのライトダウン
 - ・海外対応の変換プラグ(変形させてどこの国でも使えるタイプは旅行先でも使える)
- 【必要なかったもの】
- ・もともと物が少なかったため特になし

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝Euro ユーロ)(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	約13万円	食費(外食費抜き)	約7万円
保険代	約20.5万円	家賃(寮費)	約16万円
予防接種・ビザ代	約1万円	教科書代(ドイツ語)	約1500円
交際費(外食等)	約5万円	その他(旅行費等)	約47万円

1ユーロ/124円で計算

合計: 約109万6500円
 (月7万円×12ヵ月＝84万円の給付型奨学金があるため
 自己負担額は25万6500円)

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

- ・基本的にカフェやレストランにおいて、水は有料になる。
- ・店員さんと呼ぶときはアイコンタクト
- ・できるだけリトアニア語で注文する

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

病院を利用したことはありませんが、寮から大学までの通学途中に病院があります。もしものときは、TEL112。不安な場合は、Kamakura のオーナーのマットさんやロシア人の友だちに相談するといいいでしょう。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

なし

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

風邪薬、正露丸、軟膏、目薬

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

留学において、私は3つの目標がありました。ひとつは、自ら発信していく力をつけること。これは自分に一番足りていない力だと留学前に感じていました。留学先で友達をつくるにしても、何かを始める時にしても、恥や失敗を恐れずに自分から行動し、自分の気持ちや考えを伝えることが求められます。また、日本人として自分の国のこと、自分自身のことを出会った人たちに発信していきたいという思いもあり、人に伝える力もつけたいと考えていました。

⇒留学生・現地の人に向けてもそうですが、旅行先のホステルで出会って仲良くなった人たちとも自分のことや自国の習慣、教育制度、政治について話す機会が多く、コミュニケーション能力とともに発信する力は自然についていきました。また、杉原千畝記念館のインターンシップでは、個人で訪問してくださった方に積極的に声をかけ、杉原千畝さんやユダヤ難民、当時のロシアの状況を説明しながら館内を案内しました。物事をただ羅列して話すのは、ちゃんと相手に伝わらないと思い、ところどころストーリーを織り交ぜ、展示品を使いながら説明するように心がけることで、自分なりの伝え方ができたと思います。

二つ目は、英語を会話のツールとして使いこなせるようになること。その場しのぎのジェスチャーや英単語を使って自分の考え方を一方的に伝える英語ではなく、相手のことをうまく引き出せるようになりたいという目標です。

⇒初めは、自分が英語を話しているときに言葉が出てこずできてしまう間が嫌で、特にヨーロッパ出身で英語を使いこなしている人たちと会話するときになぜか緊張してしまう自分がいまし

たが、発音や文法、そして少しの間なんか気にせず堂々と話し続けられればいいんだと気づいてからは、自分の Speaking に自信をもつことができました。

最後は、人とのつながりを築くこと。たとえ人種や言語に違いがあっても、自分のことを理解してもらい、同じように私もほかの人たちを理解する。そして、心と心につながりが持てるような人間関係を留学先でつくるのが目標でした。

⇒韓国人の友だちに、最初は日本に対して良い印象を持っていなかったけれど、あなたと過ごす中でその印象が変わったと言われたときは、本当に嬉しかったです。同時に、「人を通してその国を知る」という意味に改めて考えさせられた瞬間でもありました。日本人である私を通して日本のイメージがつくられる、そう考えたときに、もちろん悪いイメージは与えたくないですが、逆に良いイメージを与えようとする必要もなく、ただ自分はしっかり行動できているだろうかとそこで振り返ることが大切なんだと思います。

⇒心のつながりを築くという目標を達成できたのは、杉原ハウスで働いていたことが大きいです。一緒に働いていたスタッフの人たちは、家族のように接して下さり、いつでも受け入れてくれる温かさに甘えて、何でもない日に行ったりしていました(笑)

留学は自分の学問を広げるだけでなく、自分が慣れ親しんできた環境をもう一回見直させてくれる機会でもありました。例えば、自分がいかに狭い視野だったかを気づかせてくれる、日本という国についてわかった気になっているかを教えてくれるものでした。環境が変わり、自分と向き合う時間が長いからこそ、自分の人間性や弱い部分に気づかされる。そして、それを変えようとする気になるのも留学の期間だからこそ。限られた特別な時間を過ごしていると実感している分、それをしっかりと実のあるものにしたい、何かを達成しなければならないと思うことが多かったです。そして、成功、失敗に関わらずそこで得た経験は日本で生活するよりも数倍自分を成長させてくれたと思います。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

ロシア語の習得: 初級クラスで習った挨拶や簡単な文章での会話は覚えることができましたが、日常的に使えるレベルではありません。単語帳を作って毎日ロシア語に触れるという努力が足りませんでした。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

- ・「明日やろうは馬鹿野郎」をモットーにその日に思ったことはすぐ実行する
- ・ロシアや杉原千畝さんについて知ってもらうために小中高生を中心にプレゼンをする
- ・人に何かを伝える仕事、メディア関連の仕事に就きたいと今は考えています。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

ロシア、いい国です。小さい国と表現されるけれど、周りの大きな国たちに支配されてきた

歴史があるからこそ、自分たちの言葉や文化、限られた資源を大切に守り、多くを望まない、そんな国です。ほかの旅行先に行くと、すぐ帰りたくなるような安心感のある、穏やかなカウナスもほんとうに最高です。

少し矛盾しているかもしれませんが、留学は場所よりもそこで何をするか、どんな人たちに出会うかです。でも、その場所だからこそできる経験があり、出会える人たちがいます。すみません、自分でも書いていてよくわかりませんが、そういうことだと思います(笑)

留学先で迷っているのなら、とことん悩めばいいと思います。ただひとつこれだと強く思えるものがある方を選択してもいい。私の場合は、それがカウナスの杉原千畝記念館でした。

その国に行ってみたい、そんな理由でも十分です。後の書類でなぜ行きたいのか、そこで何をしたいのかなど立派にたくさん書かなければなりません、それは出発する前までに明確にしておけば大丈夫です。

どこの留学先でもみなさんが、やってみようトライする気持ちを忘れず、元気な心と体で過ごせることを願っています！

